

# 市民意識調査の結果がまとまりました

市では、令和元年7月に市民意識調査を実施しました。この調査は、市民の皆さんが行田市に対して普段どのように考えているかを把握し、第6次行田市総合振興計画をはじめ、各種行政施策の基礎資料とすることを目的として行ったものです。

ここでは、市民意識調査の結果の主なものについて紹介します。

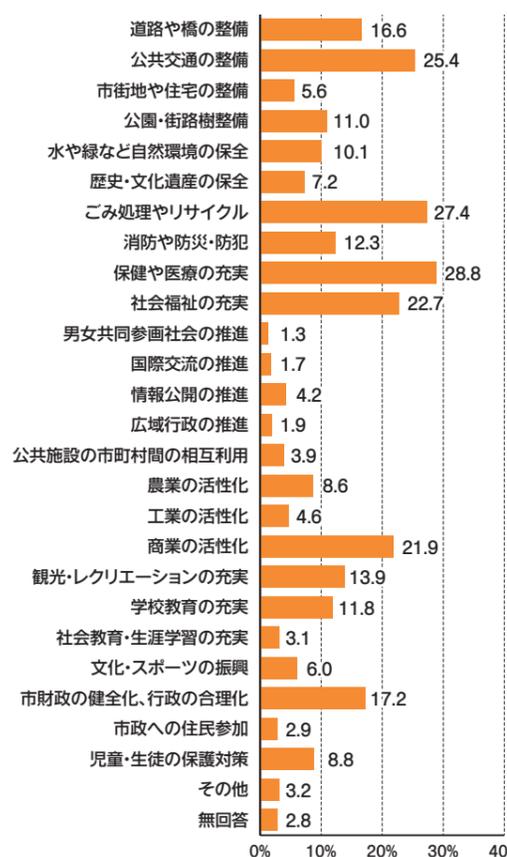
(比率は全て百分率(パーセント)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%を上下する場合があります)

## 調査の概要

- 調査対象 市内在住の満18歳以上の方
- 調査人数 3,000人(無作為抽出)
- 有効回収数 1,560票
- 調査方法 調査票を郵送の上、記入後に返送
- 調査時期 令和元年7月～8月

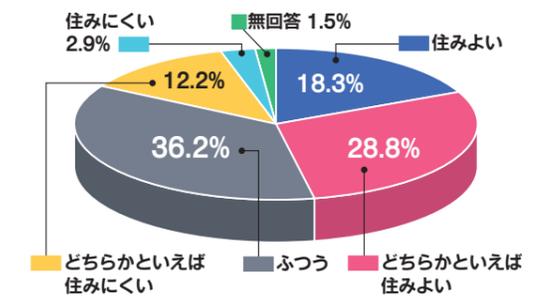
質問：これからの市政において、特に力を入れてほしいものは何ですか。(複数回答)

結果：行政が特に力を入れてほしい施策は、「保健や医療の充実」(28.8%)が第1位に挙げられ、次いで「ごみ処理やリサイクル」(27.4%)、「公共交通の整備」(25.4%)、「社会福祉の充実」(22.7%)、「商業の活性化」(21.9%)などの順になっています。



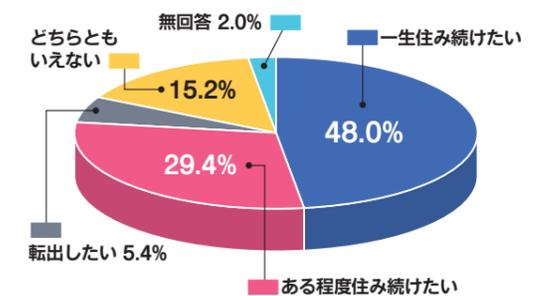
質問：行田市の住み心地はいかがですか。

結果：まちの住み心地は、「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と回答した“住みよい”が47.1%で“住みにくい”(「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と回答した人)の15.1%と約3.1倍となっています。



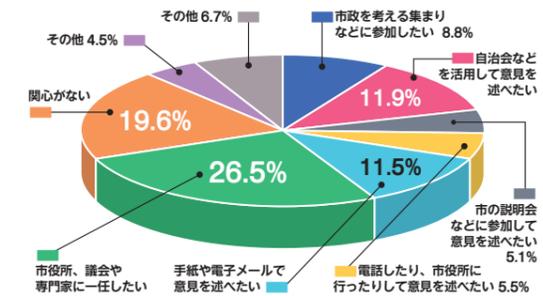
質問：今後も行田市に住み続けたいとお考えですか。

結果：今後の居留意向は、「一生住み続けたい」が48.0%と最も多く、「ある程度住み続けたい」29.4%、「どちらともいえない」15.2%、「転出したい」5.4%となっています。「一生住み続けたい」と「ある程度住み続けたい」を合わせた“住み続けたい”は77.4%となっています。



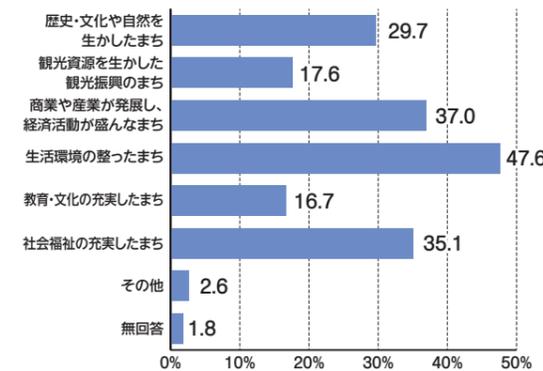
質問：市政への参加についてどのようにお考えですか。

結果：市政への参加については、「自治会などを活用して意見を述べたい」や「手紙や電子メールで意見を述べたい」など、何らかの形で参加や意見を述べたいと考える人が42.8%となっています。一方、「市役所、議会や専門家に一任したい」や「関心がない」とする人は46.1%となっています。



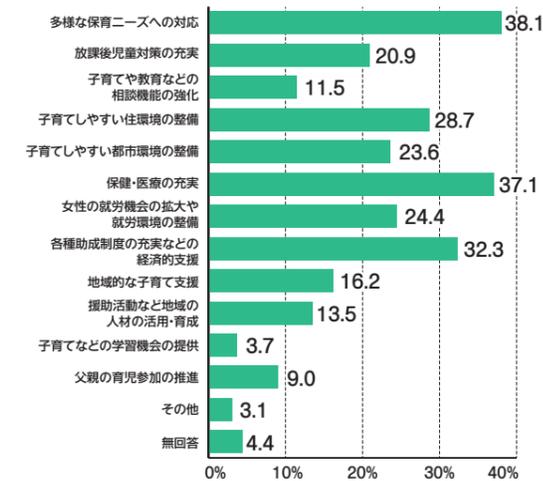
質問：行田市が、将来どんなまちになったらよいとお考えですか。(複数回答)

結果：行田市の将来像は、「生活環境の整ったまち」(47.6%)が最も多く、次いで「商業や産業が発展し、経済活動が盛んなまち」(37.0%)、「社会福祉の充実したまち」(35.1%)、「歴史・文化や自然を生かしたまち」(29.7%)となっています。



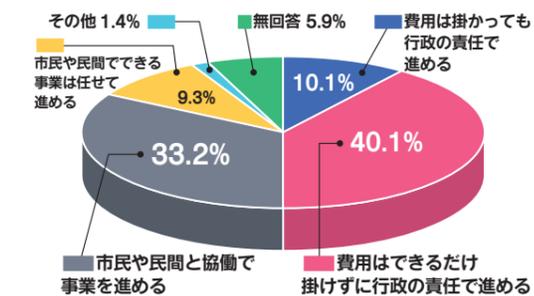
質問：今後の少子化社会に対応するためにはどのような施策が重要だとお考えですか。(複数回答)

結果：少子化社会に対応するために重要なことは、「多様な保育ニーズへの対応」(38.1%)が第1位に挙げられ、次いで「保育・医療の充実」(37.1%)、「各種助成制度の充実などの経済的支援」(32.3%)、「子育てしやすい住環境の整備」(28.7%)などの順となっています。



質問：今後の行政運営について、どのような方向が望ましいと思いますか。

結果：今後の行政運営については、「費用はできるだけ掛けずに行政の責任で進める」と「費用は掛かっても行政の責任で進める」を合わせた“行政の責任”が50.2%となっています。一方、「市民や民間と協働で事業を進める」と「市民や民間でできる事業は任せて進める」を合わせた“市民や民間と協働”は42.5%となっています。



## 行田市民意識調査報告書 概要版を差し上げます

行田市民意識調査の報告書がまとまりましたので、概要版を2月3日(月)から無料で配布します。ご希望の方は、広報広聴課または市政情報コーナーまでお越しください(無くなり次第終了)。

なお、内容は市ホームページでもご覧いただけます。

▶問い合わせ 同課広報広聴担当(内線318)